

Echoview バージョン 4.10 の新機能

機 能	説 明
バーチャルデータ変数の強化	<ul style="list-style-type: none"> “Inherit calibration settings”を使い、選択するデータ変数から較正の設定を受け入れるかどうか選べられる。
ユーザーインターフェースの強化	<p>Echoview のワークスペースの調節を強化し、データに関する情報により簡単に接近できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> “積分ライン”の新しい分析ツールは、魚探機からのピングのデータによる NASC の相対的な寄与を視覚的に評価するために有用に使える。 “変数と幾何のウインドウ”において、ライン、バーチャルライン、魚探機からの海底ラインは表示、修正出来る。 新しい Message が出来た場合、Echoview status bar に Message のアイコンは表示し、知らせる。 Templates と color schemes に対して、ユーザーはそのファイルの位置が指定できる。 シンにおける 3D の領域を見ながら、不要な 3D 領域が簡単に削除できる。 ライン、領域の編集、領域の分類に関する Echogram tools toolbar はより簡単、明確になった。 “Details”のダイアログボックスに、レンジと深度の表示に小数点が指定できる。 Single target export に対して、single target がないピングも出力可能である。その出力ファイルは Echoview に再インポートできる。 “Short name”を使えば、Variable properties の default の operand 名が変える。 EV file properties の Region ページにおいて、“Create maker regions from data files”を uncheck すると、Echoview の性能が改善できる。
スレッシュホールド応答のグラフ	<ul style="list-style-type: none"> スレッシュホールド応答のグラフは、Sv エコーグラムに領域や選択域における構成された魚種を検査するために役立つ。選択域に対して NASC 対 Sv スレッシュホールド値をプロットする。 このグラフの潜在的な使用の一つは、2つの魚種に分布した場合、Sv スレッシュホールドの変化に対して NASC が大きい変化(視覚的なジャンプ)が見られると考えられる。
新しい Scripting の命令	<ul style="list-style-type: none"> データ変数に較正 offset を適応するとき、TVG range offset の設定が出来る。 Variable properties と virtual variable properties に対する新しい Scripting の設定をサポートする。特に、data generator, data range bitmap, convolutions, mask, GLCM texture feature, calibration inheritance である。 Script を通して、ファイルをインポートするときに、すでにインポートされた object を識別するために、カスタマイズされる名前が指定できる。 データファイルを削除するために、Path の指定が簡略される。今はファイル名とファイルセットを指定すれば良い。 Undocumented StartMinimized function はヘルプの optional scripting functions に見られる。この機能は、最小化したウインドウでの Echoview を実行する場合、時間を稼ぐ。 PrePickLine と PreCreateLineRelativeRegion の Preaction に対して、初めと最後のピングのパラメータは随意である。
新しい scripting 自動モデル	<p>COM object automation を用いて、Echoview が情報を Script へ送ることが出来る。それで、Script は判定をすること、ユーザーから判定を要求すること、Echoview からユーザー</p>

	へ情報を送ることが可能である.
新しいファイルフォーマットのサポートとファイルフォーマットの強化	<ul style="list-style-type: none"> • Simrad SH80 と SimradSP70 のデータフォーマット • Kongsberg Mesotech SM20 のデータフォーマット • Kongsberg EM3002D のデータフォーマット • HAC で探知された single target ピングの間にピングが欠けた場合、Echoview はそのピングを追加する。そのために、Fish tracking と Echogram における single target の表示にエラーなく表示できる。
Data generator 演算子の強化	<ul style="list-style-type: none"> • Data generator 演算子において新しいアルゴリズムと設定によって、TVG override 値と Sample offset 値を使う/使わないという選択の上に、TVG 曲線が作られる。これは雑音を和らげると、雑音の分析に有効であろう。
再サンプル演算子の強化	<ul style="list-style-type: none"> • 再サンプルするデータ変数のレンジを operand 1 のデータから使うか、初めと最後のレンジを設定して使うかの選択が出来る。
体長演算子における魚種の定数	<ul style="list-style-type: none"> • TS から体長を求めるために、必要な定数の情報を提供する。
積分アルゴリズムの強化	<ul style="list-style-type: none"> • マルチビームの crusing スキャンングに対する積分のアルゴリズムの使用を拡張する。H モードビームは今サポートされる。
TS データ変数に較正設定の強化	<ul style="list-style-type: none"> • Single target detection 演算子は、送信パルス幅 (Transmitted pulse length) を用いる。Echoview はすべての TS データ変数に対して、この設定をサポートする。新しくサポートするファイルフォーマットは以下に示す。 <ul style="list-style-type: none"> ○ ASCII.ts.csv files ○ Biosonics files ○ HAC data files ○ HTI sample data files ○ Simrad data files containing TS Q telegrams